

腎疾患は、急性から慢性までホスピタリストが守備範囲とする病態が多い疾患群といえます。高齢化に伴い、自覚症状なく腎機能が低下している症例が増加、薬剤や腎疾患以外の病態で腎機能が悪化し、急性腎障害 (AKI) を発症する場合も多く、また、その疾患概念が普及するとともに慢性腎臓病 (CKD) と診断される患者も増加しています。本特集では、AKI, CKD, 電解質異常をはじめ、ホスピタリストが知るべき腎疾患診療のポイントを示します。ホスピタリストの診療においては、どのタイミングで専門医にコンサルトするかが重要になります。適切な腎専門医コンサルトができるよう、それぞれの腎病態における思考プロセスを示します。また、透析患者や腎移植後患者についても、知っておくべき管理のポイントが触れられます。明日からの腎疾患診療において、一歩ステップアップしたホスピタリスト、腎専門医と真のコミュニケーションのとれるホスピタリストを目指すための特集です。

腎疾患の総論

奈良県立医科大学 卒後臨床研修センター 赤井 靖宏

腎疾患管理に必須の基本事項

1. 腎機能評価 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 腎臓・高血圧内科 上原 圭太, 安田 隆
2. 尿検査 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 腎臓・高血圧内科 今井 直彦
3. 画像診断 川崎医科大学 放射線医学 山本 亮, 伊東 克能

急性腎障害 (AKI)

4. AKIの特徴と鑑別診断 東京大学医学部附属病院・腎臓内分泌内科 山下 徹志, 土井 研人
5. AKIの予防と治療戦略 東京慈恵会医科大学 麻酔科 集中治療部 井澤 純一
6. AKIにおける腎代替療法 (RRT) 導入のタイミングと管理 聖マリアンナ医科大学 腎臓・高血圧内科 柴垣 有吾

7. 造影剤性腎症 (CIN) の予防と管理 東京ベイ・浦安市川医療センター 循環器内科 神尾 恭弘
同 総合内科 平岡 栄治

【コラム1】Cardiorenal syndrome (CRS) 東京ベイ・浦安市川医療センター 総合内科 宮内 隆政
練馬光が丘病院 総合診療科 筒泉 貴彦

【コラム2】急速進行性糸球体腎炎 (RPGN) の診断 奈良県立医科大学 第1内科 鮫島 謙一
水・電解質異常の管理

8. Na異常の診断と治療 京都桂病院 腎臓内科 田川 美穂
9. K異常の診断と治療 聖路加国際病院 腎臓内科 長浜 正彦
10. カルシウム、リン、マグネシウム異常の診断と治療

Division of Nephrology, Medical University of South Carolina 三枝 孝充

11. 酸・塩基異常の診断と治療 中部ろうさい病院 腎臓内科 龍華 章裕, 志水 英明

慢性腎臓病 (CKD)

12. CKDにおける心血管病リスク管理 亀田総合病院 腎臓高血圧内科 小原 まみ子
13. CKDにおけるMBD, 貧血管理 東京ベイ・浦安市川医療センター 腎臓・内分泌科 鈴木 利彦
14. CKD患者における薬剤投与のコツ 沖縄県立中部病院 総合内科 金城 紀与史
15. 腎代替療法 (RRT) 導入のタイミングとmodality選択 聖路加国際病院 腎臓内科 小松 康宏
16. 腎生検と腎専門医紹介のタイミング 赤井 靖宏

【コラム3】ネフローゼ症候群で何を調べる? 刈谷豊田総合病院 腎・膠原病内科 小山 勝志

【コラム4】透析患者が入院してきたら 洛和会音羽病院 腎臓内科 山口 通雅

【コラム5】腎移植後患者が入院してきたら 豊見城中央病院 腎臓・リウマチ膠原病内科 塚原 知樹

【コラム6】腎疾患と栄養 宮内 隆政, 平岡 栄治

※誌面の都合により、内容が変わることがあります。

● BackNumber

■ Vol.1 (2013年)

No.1 ホスピタリスト宣言

No.2 感染症

■ Vol.2 (2014年)

No.1 腎疾患

No.2 膠原病

No.3 消化管疾患

産みの苦しみ、とはよく言ったもので、日本型ホスピタリストという新たなあり方を実のあるものにしようという場合、手取り早く制度として定めてしまったのでは現場との乖離が生じるだけ、その実質を詰めていくことは実に並大抵のものではありません。最近のご当地ゆるキャラブーム、ゆるいのが好まれるのは、曖昧さを許容する日本人ならではの知恵かもしれませんが、目指すホスピタリストにはそれは許されません。そのため、創刊号は「ホスピタリスト宣言」。で、いよいよ本誌の方向性が露わになるときがきました。しかし、試行錯誤は続きます。編集委員が求めるものを形作るには、各科専門医の協力が欠かせません。そのためにも、ホスピタリストとは如何なるものなのかを理解していただかなければならないのですが、ホスピタリストがホスピタリストたんとする実を詰めるのが本誌の積み重ねであり、ムムム、堂々巡りに陥ります。これが産みの苦しみ…皆様からのご意見お待ちしております。

● 広告一覧

医学書院……274, 304

インターメディカ……168

サーモフィッシャーサイエンティフィック……表4

Vol.1 No.2 2013年12月1日発行 (年4回 (3, 6, 9, 12月1日) 発行)

Hospitalist

1部定価 (本体4,600円+税)

予約購読料2013年 (2冊分) 9,240円, 2014年 (4冊分) 18,480円 (税込み・送料弊社負担)

発行者 若松 博

ISBN 978-4-89592-936-3

発行所 株式会社 メディカル・サイエンス・インターナショナル
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
電話: 編集部 03-5804-6056 FAX: 編集部 03-5804-6054
販売部 03-5804-6051 販売部 03-5804-6055
URL: http://www.medsico.jp Eメール: hospitalist@medsi.co.jp
振替: 東京 7-28572

印刷所 横山印刷株式会社 電話03-3622-6161

広告取扱 メディカルブレーション 電話03-3814-5980

日本医学広告社 電話03-5226-2791

文京メディカル 電話03-3817-8036

福田商店広告部 電話06-6231-2773

本誌の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権 (送信可能化権を含む) は (株)メディカル・サイエンス・インターナショナルが保有します。本書を無断で複製する行為 (複写, スキャン, デジタルデータ化など) は, 「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学, 病院, 診療所, 企業などにおいて, 業務上使用する目的 (診療, 研究活動を含む) で上記の行為を行うことは, その使用範囲が内部的であっても, 私的使用には該当せず, 違法です。また私的使用に該当する場合であっても, 代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

【JCOPY】< (社) 出版者著作権管理機構 委託出版物 > 本書の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は, そのつど事前に (社) 出版者著作権管理機構 (電話03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。